# 忍び寄る インフラ老朽化問題

復旧作業のため列をなす工事車両

2021年8月、酷暑の中、新宿区と文京区にまたがるエリアで大規模なガス供給停止事故が発生しました。防災対策やインフラ更新の課題などについて、以前より白ガス管の実態把握などに取り組んでいた文京区議の金子てるよしさん、元東京ガス社員で東京ガス労組元中央委員の伊野正之（いのただゆき）さんを中心に、取材しました。

## 古いガス管図面、公開を
### 防災対策立てられず危険

**2021年8月、江戸川橋周辺6500戸都市ガス供給停止事故**

東京ガスが、8月21日（土）から26日（木）の6日間にわたり、新宿・文京の両区にまたがる江戸川橋駅周辺地域で最大6979戸に及ぶガス供給停止事故を引き起こした。法令上、500戸以上の供給停止事故は経済産業省への緊急報告（3カ月以内に詳細報告）が求められており、その13倍の規模となる大規模な供給停止事故となった。

金子さん

【金子てるよしさん談】私たちがガスの労働者から伺った範囲では、昔からの古いガス管がまだ残されているのではないかと思っています。ガス管の種類の中に、亀裂や折衝による重大事故のリスクがあるとされる「ねずみ鋳鉄管」というものがあって、以前、私たちが区議会などでその問題を取り上げている頃に経産省に聞き取りした時には、ねずみ鋳鉄管はもうすぐなくなるという説明だったと思います。ところが経済産業省ガス安全室が2021年3月10日に公表している「2019年経年管対策の実施状況について」（以下「実施状況」）によると、まだ存在することになっています。

古くて破損や腐食する危険性がある鋳鉄管や白ガス管が、どれくらい古くてどこにあるかということをガス会社は詳細に知っているはずですが、そのデータを出さないし、いつまでに直すとも言わないし、国も言わせてない。これが大きな問題です。「実施状況」でこの白ガス管が何本ありますというのは報告しているのですが、それがどこにどれくらいあるのか知らされていません。従って、その古いガス管とか古い水道管でもいいのですが、もし漏れたりした時にどうするのかという自治体の対応マニュアルは、十分ではありません。今回のガス供給停止は土曜日に起こったのですが、文京区防災課は月曜日に出勤して情報収集し始めた時に、午前11時ぐらいに東京ガスの人が来て報告を受けたといいます。区は想定外の対応として、浴場組合の協力も得て公衆浴場などを開放したり、区が持っている非常食を提供してがんばったと思います。しかし、地震とか水害だったら、土日だろうが起こったらこうしますという手順が全部決まっていますよね。古いガス管がどれぐらいどこに埋まっているのか公開されていたら自治体も対策を立てられると思います。

比較的新しい（70年代）と思われる鋳鉄管の役物

## 公的な責任果たして
### 建設産業育成にも繋がる

鋳鉄管や白ガス管がまだあるのなら区民と自治体に知らせるべきだと思います。それでなければ自治体は住民の命と健康を守るための対策がたてられません。これは、経済の理屈が命よりも優先されているという問題です。今回、非常に大きな事故だった割には、そんなに関心が寄せられてない。これからも起こり得るし、なにしろ危険性がわからないということですよね。今回、被害が発生した自治体は区民の生活を守る上で、老朽ガス管の埋設状況をガス事業者に聞く権利があります。これを機に、私たちも区議会を通じて正していきたいと思います。

### 復旧する技能者の確保、真剣に

そして、ちゃんとこの課題を明らかにさせると、ガス管設備の工事関係者にとって、相当な仕事確保にもなるのではと思います。今回の復旧で、東京ガスは江戸川橋に300人もの協力企業を集めました。多分関東一円から集めたのだと思います。高齢化していて、ただでさえ継承の問題が深刻になっています。やっぱりライフラインを安全にメンテナンスして更新させていく機能とかそういう技能を持った労働者を育てるという事と合わせてやっていく必要があります。

東京ガスは全部外注方式で実働部隊を持っていません。大地震で古い管が壊れた時にそれを復旧する技能者をどう確保するのかということを真剣に考えておかなければ、企業としては無責任の誹りをまぬがれないのではないでしょうか。指導監督官庁や自治体が防災の観点でもそれを要求していかなくてはなりません。建設産業を健全に育てていくということにも繋がる話です。ライフラインを担う企業が、公的な責任をきちんと果たすよう行政が求めていくことが必要です。

## 維持管理に人と金を
### 元東京ガス・伊野正之さん

伊野さん

今、都市ガス原料が100%の乾きガスになったため、差し水事故は10年に1度起こるかどうかという状況です。水道管の折損や地下水の呼び込みで水がガス管の底部に入りガスが遮断されると供給支障事故となります。水道管の漏水の場合、その圧力により周りの砂礫を吹き付けてガス管に水が入るほどの穴をあける「サンドブラスト」が起こり得ます。

今回の場合、神田川、地下鉄、外苑東通りなどが交わる一面で、条件も判断も大変ななかでの復旧作業となったと思います。地下埋設のガス管の計画的取り換えがどう実施されているのか。導管網の日常的維持管理に人と金をかけ、安全に責任を持てる東京ガスになることを願っています。

ビニールで被覆した水道管も見える

## 食事時 ガス止まる
### 新宿支部・富澤博行さん

富澤さん

土曜の午後5時半頃にガスが止まりました。丁度食事の準備の時間だったので困りましたが、なべ用のIHプレートでしのぎました。お風呂も沸かせなくなりましたが、日曜から開放された銭湯を利用しました。夏の暑い時期だったので、ポットのお湯なども利用しながら、自宅でなんとかなった面もあります。

復旧作業で、あちこち掘り起こしていました。地方ナンバーの車が多く、徹夜で作業していたようです。東京ガスがガスコンロを貸し出していましたが、新宿区からは特段援助はありませんでした。もともと水害が多い地域で、防災意識も高く、幸いそれ程困った状況にはなりませんでした。